

実施月日	対象地区	会場
5月14日 月	上野地区	上野小学校 ふれあいホール
5月15日 火	赤池・市場地区	コスモス 保健センター
5月21日 月	金田地区	中央公民館 金田分館 1階
5月22日 火	神崎地区	中央公民館 金田分館 1階
5月28日 月	伊方地区	方城地域 交流センター
5月29日 火	弁城地区	方城地域 交流センター



まちづくり懇談会 タウンミーティング

# 町の未来を考える

## 町長と共に語った6日間

浦田弘二町長が各地区で直接住民のみなさんと対話する「まちづくり懇談会（タウンミーティング）」が、5月に行われました。今回は早い期間で町内を回りたいとの趣旨から、上野、赤池・市場、金田、神崎、伊方、弁城の6地区で開催。全体で303人が参加し、お互いが顔を合わせながら、これからの福智町を具体的にどのようにしていくかを町長が報告し、住民のみなさんと福智町が今後どうあるべきかを一緒に考えました。

今回、その中で町長が報告した内容と、各会場で寄せられたおよそ90の質問の中から、18の質問と回答を抜粋してお知らせします。なお、地域などの要望に関する内容は掲載していません。

福智町の平成17年度決算の地方債残高は約23.7億円でした。合併協議で旧町が取り組んでいた事業の中で、継続する取り組みが行われたものもあり、平成18年度では約2.60億円の地方債残高になることが見込まれます。そのような反省のもと、平成19年度一般会計当初予算は、平成18年度に比べ17億5千万円（11.4%）減額し、約13.6億円としています。「予算の節減」と収入の確保、この財政再建に欠かせない2つの側面をいかに実行できるかが、直面している大きな課題です。

### 予算の節減

- 職員による作業**  
安易な道路舗装や草刈りなどを業者発注せず自らの力でやっていくために、4月1日から、建設課に「環境整備係」を配置しました。職員が作業を行うことで、予算が節減できます。
- 一般競争入札の導入**  
今まではすべての入札において、行政が事業を発注する業者がある一定の数に決め、その中の業者で競争するという指名競争入札の形をとっていました。しかし6月からは一定の条件のもとに一般競争入札を導入いたします。このことより、将来的にはかなり

の予算節減につながります。

- 公共施設の統廃合**  
福智町には約240の公共施設があります。維持、管理、修繕や改修を考えれば、この人口の町にこれだけの施設は必要ないと思います。これらをどのように統廃合していくかの案を11月末ごろまでにまとめ、住民のみなさんに報告しながら、具体的に平成20年度から予算面での反映をしていきたいと思っております。



ります。方城診療所は現在順調に推移していますが、赤池のコスモス診療所は町立病院のままの人員体制であるため、経営状態が良くありません。このコスモス診療所の経営改善、立て直しに全力を注いでいきたいと思います。

### 自主財源の確保

- 町有地の有効活用**  
現在、旧3町ともに宅地分譲で造成した町有地が多くあります。ところが10年たっても売れ残っている町有地もかなりあります。これをきちんと整理し、どうしてもの整理がつかない分は、どうかの目的変更をしながら有効活用していきたいと思っております。そういった町有地の有効活用を目指す委員会を設け、11月末ごろを目途に結論を出しながら平成20年には具体的に実践したいと思っております。

### 観光・教育のまちづくり

福智町には温泉をはじめ、上野焼、基幹産業である農業、古くから伝わる文化的遺産が豊富にあります。これらを連携させ、町外からの流動的な人口が増えれば、この福智町の消費活動が活発になると思います。それが町の自主財源にもつながっていきます。この効果が十分に現れるような取り組みを12月から来年に向けてぜひ具体化し、住民のみなさんに報告していきたいと思っております。

また、充実した教育の町づくりを進めたいれば、必ず町外からも「うちの子に福智町で教育を受けさせたい」という行動につながってほしいと思います。仮に小中学校の9年間だけでも、この福智町の地域性が理解されれば、そのまま永住していただける可能性も出てきます。これらの施策で、まずは人口を増やすということが大事な町の財源を確保する手だてになってくると考えています。

### 起業の推進

現在、自動車関連企業やロボットの産業の企業誘致に向け、基礎固めをしています。また発想を転換し、福智町に元々根付いている特色を活かして、全国に発信できるような起業に結びつけていきたいと思っております。近々、起業の検討委員会などを立ち上げ、具体的にどのようなことが福智町とし

て町外に発信できるかを検討し、結論を出したいと思っております。

### 滞納金問題

町税、使用料などを含め、旧3町を合わせると30億円近い滞納額があります。その対策として、今年4月から各税関係、使用料関係の課に徴収担当職員を増員しました。さらに、最終的に悪質な滞納者については、きちんと整理した上で法的な措置を講じるため、4月から収納対策室を設置しました。このことにより徴収の効率とスピードを上げていきたいと思っております。また、7月からは私を含め管理職が滞納者のところを回り、積極的に徴収にあたっていきたいと思います。

### 町職員の意識改革

財政再建と町づくりを進めていく主役は住民のみなさんです。ただ、具体的に実践、実施していくのは私を含めた職員です。よってその職員の資質やレベルを上げていく手だてとして、今年4月から県とトヨタ自動車に各1人、6月から安川電機に1人を研修のため派遣しています。今年は3人ですが、こういうローテーションを



組んでいけば、20人になり、30人になると、民間の発想で町づくりや行政運営を考えられる職員が増えてきます。そうすれば意識も発想のレベルもさらに高まると思います。一気にそういった職員集団にはなりませんが、少しずつ根気強く、職員の意識改革に取り組んでいきたいと思います。